

昭和五十八年度を省みて

館長 橋本 昭二

公民館の年中行事で有ります市政懇談会・敬老会・文化祭・激励会・体育祭など、全町の皆様の御協力によりまして年と共に盛んになって行く様です。

又館報「ひろば大代」の発行に当りましては、心良く御寄稿の依頼に応じて頂き、お蔭で毎月欠かさず皆様の御手もとへ御届け出来、関係者一同厚く御礼申し上げます。

次に当館の利用状況ですが、現在未だ集計中ではあります。又、昨年度を大代に上廻りして居る様です。

喜ばしい限りで併せて御礼を申し上げます。

さて前年度を振り返って見ますと、大代町の皆様と膝を交えての話し合いが足らず、公民館活動の全内容や、社会教育とは何かと言った掘り下げが今

一つではなかつたかなと反省を致しております。

本年は特に「明るい町づくり」を目指し、全町の皆様の、より絶大な御力添えを得て目的達成に邁進致したいと思ひます。

成人病予防について(1)

なぜ「予防」を唱えるのか

医師 岡 平

成人病に対して乳幼児病というべきでしょうが、この概念が予防医療によってその半分以上を防ぐことが可能となつた今日、残るところ殆ど遺伝病と成人病とで占められるようになったようです。

乳幼児病が成長発育病とでもいわれるのに対し、成人病は老衰病とでもいえる体の衰退にもとづくものが主役です。早くいえば乳幼児・学校児童病は免疫可能のものが多く、その方面は研究が進んだためもありますが、成人病の予防では物事の順序からして未だ手おくれの感があり、これからの研究と個々の自衛的手段に待つところが多い

のです。

例えば血圧上昇を防ぐための塩分制限や、動物性脂質制限も、一見姑息的ともいえるようでも致し方ない現状なのです。只いえることは、乳幼児病は免疫可能病といえるように、多くは急性外来性疾患であり、成人病は慢性内因性疾患が殆どであることこそ免疫が否定され、予防のためには接種は不能で、食物や生活環境の是正にたよる以外にないのです。

（詳しくは次の欄に）

明るい町づくりは

一日の出合いから

婦人会長 渡 鏡子

「健康で人情豊かな大代を築こう」をスローガンに大代町明るい町づくり推進協議会が発足されました。

明るい町づくりの基本は人と人との関係が明るい事であると聞いております。

一日の朝の出合い、お互いに心から「お早うございます」の挨拶が出来たら気分爽快、何か良い事があつた様に

